



元気な木を育てて、
元気なトマトを
作っています。

トマト嫌いの子どものおかあさんが、「うちの子、野村さんこのトマト
やったら食べるき〜」。年配の方からは「皮も気にならんし味がえい
(良い)」と評判だ。

桃太郎ピースという品種の種を自家苗床で育て、土の代わりに
ロックウールという岩石から作られた繊維を固めたものを使う。
さらに海洋深層水のがりを肥料に混ぜて栽培。こうすることで
トマトの木が豊富なミネラル成分を吸収し、元気いっぱいの
『ミネラルトマト』を实らせる。

普通のトマトと比べてずっしり重く、ちょっと酸っぱいけどしっかり味の
あるこのトマトは、高知市の日曜市でも大人気だ。

『ミネラルトマト』は、14棟のビニールハウスで栽培。1年中なるべく
切らさないようにと、ロックウールポットでの栽培を始めた。1本の
木に実を3〜4個にして贅沢に育てるので、大きさも粒ぞろい。
選果も収穫も、20名ほどのスタッフがひとつひとつ手作業で行い、
販売も手がける。たくさんの手をかけて市場に送り出すのだ。

トマトの村は、日照時間が長く雨量も多い春野地区で家族経営から
始まった。「その頃の夢は専業主婦でした」と笑う野村妙子。

いまでは、「生でもおいしい『ミネラルトマト』を、ぜひ都会のシェフの
方々の手で、和洋中いろいろに変身させてほしい」と、手塩にかけて
育てた赤い愛娘たちを、県外にも嫁に出すのが夢である。

株式会社 トマトの村
野村妙子

室戸じと、
進む。